

札幌市立宮の丘中学校の取組

1. 研究のねらい

本校の総合的な学習の時間では「生き方を学ぶ」というねらいで取り組み、学年別に、1年「生命の大切さを学ぶ」、2年「働くことに向き合ってみよう」、3年「広い世界に目を向けよう」というテーマで実施している。

3年生のテーマ「広い世界に目を向けよう」では、日本文化について課題を見つけ追求し、国際交流を通して情報発信することで、広い世界に目を向け自分の生き方に生かすことを目標にしている。

平成 22 年度以降は JICA 等に申し込みをし、研修員の方を招いた交流や海外派遣経験者の方による講演会を実施するなどを行っていたが、平成 25 年度以降は、「札幌国際日本語学院」の留学生を本校に招いての交流も図っている。

平成 25 年度以降、3年生は年間（1～2 学期間）を 3 期に分けて活動しており、以下のとおりに計画・実践してきた。

（1 期）「日本の文化を知り、日本の良さを伝える」

（2 期）「世界の子どもたちを取り巻く諸問題（貧困等）に目を向ける」

「外国人の方を招き交流を図る」

- ・ユニセフ募金やエコキャップ運動など、自分たちでできる活動を考える。
- ・在札の留学生との文化交流を行う。

（3 期）「広い世界に目を向けよう」

- ・JICA の海外青年協力隊の方を招き、諸外国の文化や生活、国際協力の仕事について理解することで、自分たちの生活を見つめ直す。
- ・北海道ユニセフ協会に協力を依頼し、「水と衛生のプロジェクト活動」「地雷の模型に触れる体験」などを行った。

2. 取組内容

課題：「留学生を自分たちの文化や学校の様子を魅力的に紹介するためには、どのような交流会を行えばよいだろうか。」

(1) 事前の取組

① 寄託図書やコンピュータによる調べ学習

諸外国の文化（衣食住他）を知るという目的で、寄託図書や PC による調べ学習を行い、各自がまとめた。

② DVD 等の視聴

「国際理解」として「世界の子どもたちを取り巻く貧困などの諸問題」などの DVD の視聴を実施し、ワークシートに感想などをまとめ、諸外国についての関心を高めた。



(2) 当日の取組

実質1コマ(50分間)で実施できる内容で、「日本の文化に触れてもらう」取組を行なった。事前準備にあまり時間をとれないことから、ジャンルを「琴」「書道」「折り紙」「独楽」「けん玉」「かるた」の6種類とし、各学級で6グループのブースに分かれて生徒が指導者役、留学生の方々は全てのジャンルを体験するという形式で行った。

交流会の後半には、事前に調べておいた留学生の国々に対する文化や習慣などの疑問や謎を、質問形式で答えていただくコーナーも設けた。

当日は、20名の留学生の皆さんが来校し、5クラスに分かれて参加していただいた。今回は日本語上級クラスの方々だったので、簡単な日本語での会話も可能で、生徒も安心して話しかけることができた。

各クラスのブースでは、実演の練習と「教える」ということのシミュレーションを何度も練習し、留学生の方々をお迎えした。どのブースも「人にモノを教える」という難しさを実感していたが、留学生の方々も実際に日本の文化に触れ、楽しんでいただくことができた。

交流会の一環として、最後に学校給食にも参加してもらい、より留学生とのコミュニケーションを図ることができた。



3. 成果と課題

(1) 成果

日本語学院の留学生の方々との交流会は、今年で3年目を迎えた。生徒たちにとっても直接外国の方と話ができるという機会があまりないので、良い経験となっている。また、留学生の方々も日本語での簡単な会話には対応でき、生徒たちも外国人に対して安心して話しかけられることも大きな要因であった。

(2) 課題

JICAの研修受入れには時期的に困難な場合がある。また、短期間で留学生の方々の母国語で会話するには到底学習する時間がなく、挨拶程度の簡単な言語に留まり、実質日本語での会話となっている。